

虹



IMS(イムス)グループ 医療法人財団 明理会

鶴川サナトリウム病院

IMSグループ広報誌プラザイムス

「プラザイムス」は、患者さま、ご家族の皆さまに院内やIMSグループの医療活動、病気に関する情報をお伝えするコミュニケーションペーパーです。



鶴川サナトリウム病院
【季刊 広報誌】

Vol.42

2022/春号

新院長ご挨拶

- ・精神科医師コラム
- ・つるびと「院内システムエンジニア」
- ・MCIトレーニングスタジオ
- ・入院患者さま作品紹介
- ・よろず医療相談室
- ・きせつの料理 ほか

ご自由にお持ちください



新院長より 地域のみなさまへ

世界でも類をみない高齢化率の我が国において、高齢者に対する医療は見本が無く、今後は高齢化が進む国々にとって、格好のお手本となり、病気を治すのみでなく、治らぬ病気と上手に付き合う方法を提供していかなくてはなりません。同時に、高齢者は複数の併存疾患を有し、また近年は生活環境として独居や高齢世帯の増加もあり、医療介護連携をさらに展開させながら、高齢者とそのご家族の身体面・精神面・環境面等、多方面から、地域の皆さまのニーズに応じた医療を提供する責務があると考えております。

令和元年、認知症施策推進大綱が発表され、我が国は認知症施策の新たなステージとして「認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる『共生』」を目指し、その基盤のもと、通いの場の拡大など『予防』の取り組みを進めていくことを掲げました。

認知症疾患医療センターとして、認知症初期集中支援事業、認知症カフェ、新設したMCI(軽度認知障害)トレーニングスタジオ等、この地域において、生活人として希望を持ってご本人様「らしく」日々を過ごせるよう、個別性の高いプランを多職種にて考え、切れ目のない医療支援体制と地域連携体制の構築を進めて行く所存です。

患者さまやそのご家族に常に笑顔で向き合う病院作りを使命として、職員全員で取り組んでまいります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

院長 林 重光

高齢者における

不安との向き合い方

精神科
医師コラム

2025

年には、認知症を生きる高齢者の数は約700万人に達し、国民の17人に1人が認知症の時代を迎えます。老年期は「喪失の年代」といわれ、「身体や精神の健康を失う」「家族や社会とのつながりを失う」といった喪失体験が起こりやすく、そしてそれによって誰しもが何かしらの不安を抱えうるのです。

新型コロナウイルス感染症を含む昨今の世界情勢が重なり、不安な日々を過ごされている方も多いと思います。実際に診療を通して、新型コロナウイルスの影響は身体的な側面だけではないことを痛感しました。感染そのものへの不安に加え、生活スタイルの変化に伴う様々なストレスがあります。また家事、介護、療養の負担が増えている方もいます。そして何よりも、人との関わりが減少し、もの忘れが進んだり、生活のリズムが乱れたり、睡眠や食事のバランスを崩してしまう場合もあります。不安は本来、誰もが抱えうる「脅威や精神的ストレスに対する正常な反応」です。まずは大きく深呼吸をしてみましょう。そして周囲の誰かや医療者に、どんな些細なことでも相談し、一緒に解決の糸口をさがしましょう。

また、生活のポイントとしては、3つ。普段から地域の活動を通して健康状態を確認する機会を設けておくこと・病気になったときや介護が必要になったときに受けられる支援の確認や準備をしておくこと・災害が起こったときの避難への備えや、家庭での備蓄などを行なっておくことが特に重要です。

航海は一人ではできません。風を穏やかにすすんだり、はたまた荒波にもまれたり、そこで破れた帆を誰かと共に修正したりする家族や友人、周りで関わってくれる乗組員がいるからこそ、前に進めます。そして、それは誰かにとってはまた、あなた自身が乗組員です。コロナウイルス感染症の蔓延で、人との直接的な関わりは確かに減ってしまいましたが、離れていても心で支え合えるような関係性を続けていきたいですね。

おばあちゃんっ子だった私が、今でも思い出すのは、祖母の「笑顔はなによりの薬やで」という言葉です。私も医療者として、些細なことでも相談していただけるような、あたたかく寄り添える環境づくりに努めていきます。そして、お話していただくことで、少しでもほっとでき、笑顔になっていただけるように、日々患者さまと共に考え、学び、邁進してまいります。

明るい笑顔と元気なパワーで、今日も診察室でお待ちしております。



執筆医師

近江 真季

精神科・老年精神科

当院にて外来を水曜午後担当中



System
Engineer

院内

システム エンジニア

当院では、令和4年1月17日(月)より電子カルテの運用を開始しました。それに伴い、システムの安全運用と、トラブルに対応するため、院内SE(システムエンジニア)が常駐しています。

端末やシステム、ネットワークに関して、院内で最も詳しい人



情報
システム
119

職員のヘルプデスク

院内には約300台の端末と電子機器が使用されているため、病院内で働くさまざまな人から、端末の使用方法や、周辺機器トラブルなどの問い合わせがあります。電子カルテの管理がメインではあるものの、職員からの問い合わせも多く、院内SEが持つPHSは、常に忙しく鳴っています。

院内SEの基本的な仕事は、病院内の全ての端末やネットワークの保守・管理を行なうことです。これらのシステムにトラブルが生じた場合、患者さまの治療や病院の運営に大きな影響を及ぼすことがあるため、院内SEは、常にシステムメンテナンスを行ないながら、電子カルテの記録修正・オーダー修正などの業務も担っています。

システムを安全に運用・管理



情報
システム
110



院内SE 島内

一般的なシステムエンジニアと違い、院内SEは「医療分野に特化したSE」です。院内SEが患者さまを直接対応をすることはありませんが、病院という場所で働いているという点では、扱うシステムによっては絶対にミスが許されず、緊張感を伴う場面も多くあります。病院の中のIT化が進むことによって生まれるトラブルも多くありますが、現場の業務の効率化によって、医療スタッフが患者さまと向き合う時間が増えることは、嬉しいことだと感じています。

認知症を 楽しく予防 脳トレエクササイズ

体 を動かしつつ計算する..など2つ以上の単純な動作を行なうことを「二重課題」と言いますが、二重課題は脳の活性化を図り、認知機能の低下を予防するといわれています。
重要なのは、うまくやることではなく、失敗を重ねたり、慣れない動きで脳に常に新しい刺激を与えること。
「間違っって盛り上がる」コミュニケーションも認知症予防の大切な要素となりますので、是非楽しみながらやってみましょう!

両手でボディタッチ

① 『基本動作』 を覚えよう



① 頭を触る

② 肩を触る

③ 腰を触る

④ 膝を触る

② ペアを組んでやってみよう



ペアの人は基本動作の1～4の数字を言って指示を出し、やる人は指示された動作を言いながら動作をします

注意! 脳トレエクササイズを行なう時は、まわりの人や物にぶつからない位置にいるかを確認し、安全に注意してください。

ポイント

同じプログラムを続けて「慣れてできる」ようになっても意味がありません。動作を変えたり、言葉を「1、2、3」から「あ、い、う」あるいは「赤、青、黄、緑」などに置き換えたりして、常に脳が刺激されるように工夫しましょう。

間違えて頭が混乱していることを、むしろ楽しんでやるのがポイントです。

鶴川サナトリウム病院では
MCI(軽度認知障害)の方を対象としたトレーニングスタジオをオープンしました

明日もあなたらしく



サービスについて

- 【適用保険】 医療保険
- 【対象】 MCIと診断を受けた方 ※詳しくはお問合せください
- 【目的】 心身機能の維持・改善
認知症への進行予防

ご利用のながれ

- 「ASMO」にお問合せ
- 見学・面談
- 当院の精神科に受診・検査

ご登録

お問合せ：MCIトレーニングスタジオ (鶴川サナトリウム病院)

042-735-2222 (代)

平日9:00-17:00 定休日:土日祝日・年末年始



入院患者さま作品介绍

リハビリのひとつ「創作活動」は、作品を完成させる達成感の獲得、誰かの役に立つという役割活動の場となります。また、季節感を感じていた
 だけ、手指や姿勢筋を鍛えるためのトレーニングとしても行なわれます。その中でこの春、患者さまが作られた素敵な作品を紹介します。



新型コロナにより、リハビリ介入ができない間でも患者さま
 の状態に合わせたものを選び制作をすすめていました

見当識障害がある方も多いため、カレンダーは毎月
 季節に合わせた装飾を制作しています

認知症などによる判断能力の低下・
 喪失が起きた場合、ご本人の資産を自
 由に動かせなくなる「資産凍結リスク」
 は確かにありますが、認知症の検査結
 果については、医師からご本人とご家
 族に直接お伝えするので、結果が病院
 から銀行に通知されたり、認知症と診
 断を受けた時点で口座が即凍結され
 るといったことはありません。
 しかし、何らかの理由により、銀行側が
 認知症の疑いが強いと判断した場合は、
 第三者に悪用されることを防ぐため、
 その時点で「口座凍結」が実行される可
 能性はあります。
 ご本人の資産を守る手段としての凍結
 ですが、預金の引き出しや解約ができ
 なくなり、口座凍結解除には、基本的
 に成年後見制度を利用して解除を行な
 うことになります。また、そうならな

教えて相談員さん!

よろず 医療相談室

ご家族からの
ご相談

母が、銀行ATMでの入出金が
 上手くできないことが増え、本人
 も悩んでいます。
 認知症の検査をした方が良いと
 思いますが、認知症の診断がつく
 と、銀行からお金が下せなくなる
 と聞いたことがあり、母も私も受
 診することを迷っています。

いよう、判断能力が低下した場合に
 備え、あらかじめご本人自らが選ん
 だ人(任意後見人)と契約(任意後見
 契約)する方もいます。

ご家族にとって、金銭管理は、とても
 難しく、デリケートな問題ですが、医
 療費や介護費など、現実的な部分にも
 多く関わってきます。判断能力があ
 る状態で早期に受診することが、今
 後の備えにもなり、ご本人、ご家族
 のためにも良いのではないですか。

もしかして
 「認知症かな?」と思ったら

町田市
 認知症電話相談

0120
 115-513

平日 9:00-17:00 土曜 9:00-12:00



5月9日(月)

時間 10:00-11:00
 場所 鶴川市民センター 2F会議室
 お申込み 042-737-1257(広報企画室)

市民公開講座
 あたまとからだを動かす講座

参加無料
 申込み制



5月19日(木)

時間 10:20-11:50
 場所 和光大学ポブリホール鶴川 3F会議室
 お申込み 042-735-2222(代表)

「わかる」
 認知症勉強会

参加無料
 申込み制

4月	29日(金)	休診
	30日(土)	午前のみ
5月	1日(日)	休診
	2日(月)	通常
	3日(火)	休診
	4日(水)	休診
	5日(木)	休診
	6日(金)	通常
	7日(土)	午前のみ

今年もカレンダー通り、日祝は休診、土曜は午前のみの診療となります。

GW中の外来診療について



5月13日(金)

時間 10:00-11:30
 場所 和光大学ポブリホール鶴川 3F多目的室
 お申込み 042-737-1257(広報企画室)

家族介護者向け認知症cafe
 やわらかカフェ

参加無料
 申込み制

つるさな栄養科
 きせつの料理

パセリカレー

実は栄養満点「パセリ」

わき役なんて言わせない



材料
 4人前

- ・ひき肉 … 200g
- ・パセリ … 10枝くらい
- ・カレー … 4皿分
- ・トマト缶 … 1缶
- ・水 … 150ml
- ・温泉たまご…1個
- ・お好みのスパイス類

作り方

- 1 パセリを洗って細かく刻む
- 2 鍋にひき肉を入れ、カレーを加える
- 3 鍋を中火にかけ、ひき肉をほぐしながら炒める
- 4 3にパセリを加えさらに炒める
- 5 パセリに火が通ったら、トマト缶、水を加え、10分程煮る
- 6 お好みでスパイス類を加えて味を整える
- 7 盛りつけの最後に温泉たまごをのせてでき上がり

パセリは、カロテン・ビタミンE・ビタミンK・葉酸・ビタミンCといったビタミン類、カリウム・カルシウム・鉄などのミネラルが豊富です。葉が柔らかく美味しい旬は春の3月～5月頃と秋の9月～11月頃です。

[障害者施設等一般病棟]のご案内

障害者施設等一般病棟とは、筋ジストロフィーやパーキンソン病、ALS（筋萎縮性側索硬化症）など指定難病の方、脊髄損傷や重度障害のある方を対象に、長期的且つ手厚い医療ケアをおこなうことのできる病棟です。2病棟 81床が10対1の看護配置での日々のケアを行ない、リハビリテーション専門職、管理栄養士、薬剤師など多職種連携により、患者さまの日常生活動作の維持と生活の質の向上を図っています。

対象患者

筋ジストロフィー等の指定難病

パーキンソン病（ホーエンヤール分類 ステージ3以上・生活機能障害度がII度又はIII度の状態）
 パーキンソン病関連疾患（進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症）
 多系統萎縮症（線条体黒質変性症、オリブ橋小脳萎縮症、シャイ・ドレガー症候群）
 筋ジストロフィー、多発性硬化症、重症筋無力症、スモン、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、ハンチントン病、プリオン病、亜急性硬化性全脳炎、ライソゾーム病、副腎白質ジストロフィー、脊髄性筋萎縮症、球脊髄性筋萎縮症、慢性炎症性脱髄性多発神経炎、もやもや病（ウイルス動脈輪閉塞症）

重度肢体不自由

※脳卒中後・認知症除く

脊髄損傷等の重度障害

※脳卒中後・認知症除く

重度意識障害

※意識レベルがJCSでII-30以上

上記以外の方でも、NPPVを使用している方、末期の悪性腫瘍の方、腹膜透析の方も対象です。また、区分外ですが重度の褥瘡のある方の治療、胃ろう造設・交換や、医療依存度の高い方の受け入れも積極的に行なっています。医療療養病棟と違い、投薬や注射薬、処置・検査等が出来高算定となるため、治療内容によって受け入れを制限することが基本的にはありません。

令和4年度診療報酬改定により、障害者施設等入院基本料を算定している患者さまへの栄養サポートチーム（NST）加算の算定が可能となりました。今後、当該病棟への入院初期におけるNSTの積極的な介入が行なわれることとなります

担当医師

ふじさわ やすひこ 専門
 藤澤 靖彦 神経内科

出身 聖マリアンナ医科大学
 学会 日本臨床栄養代謝学会 認定医・日本神経学会

だんばら みきお 専門
 檀原 幹生 血液内科

出身 北里大学
 学会 日本血液学会 専門医・日本内科学会 認定医

受け入れ症例実績

パーキンソン病
 パーキンソン病関連疾患
 （進行性核上性麻痺・大脳皮質基底核変性症）
 プリオン病
 クロイツフェルト・ヤコブ病
 ハンチントン病
 ミトコンドリア病
 筋萎縮性側索硬化症
 脊髄小脳変性症
 歯状核赤核淡蒼球ルイ体萎縮症
 神経線維腫症

（2019-2021年）

入院・転院のご相談は

医療相談室 TEL 042-737-1270

東京都指定 認知症疾患医療センター
 IMS(イムス)グループ 医療法人財団 明理会



鶴川サナトリウム病院

日本医療機能評価機構認定病院



無料送迎バス 小田急線「鶴川」駅約8分

つるさな 京王線「若葉台」駅約8分

広報誌に関するお問合せ ▶ kouhou3710@ims.gr.jp